

## 内閣府本府政策評価有識者懇談会（第50回）議事要旨

1. 日 時 令和6年3月11日（月）10:30～11:23

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館9階928-1会議室

3. 出席者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	荒見 玲子	名古屋大学大学院法学研究科教授
	伊藤 正次	東京都立大学法学部、大学院法学政治学研究科教授
	小野 達也	鳥取大学地域学部教授
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	横田 響子	株式会社コラボラボ 代表取締役

（内閣府）

	岡本 直樹	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
	盛谷 幸一郎	内閣府大臣官房政策評価広報課長
	入野 史也	内閣府大臣官房政策評価広報課課長補佐

4. 議題等

<議題>

1. 内閣府本府政策評価基本計画（第7次）の改正（案）について
2. 令和6年度内閣府本府政策評価実施計画（案）について
3. 今後のスケジュールについて

<報告>

政策評価に関する基本方針（閣議決定）の一部変更について

5. 議事要旨

（1）議題1及び2

事務局より資料1～5に基づき説明。内容の修正に係る委員からの意見はなし。  
委員の主な御発言（○）及び事務局からの回答（●）は以下のとおり。

○議題1の改正（案）においてモニタリングの省略ということだが、事前分析表の目標値等の更新をすべきかどうかの判断が重要なのではないか。指標や目標値の水準が依然として妥当であるという判断があってはじめて、事前分析表の

更新を行う必要はないということになると思う。目標値等を更新する必要がないという判断はどこかで示されるのか。

- 事前分析表に掲げる測定指標の実績値等を記載した一覧表は今後も作成し、この一覧表において測定指標の実績値がどのようになっているかは明らかとなり、当該一覧表は本有識者懇談会にも諮る。また、参考指標については、事前分析表の更新をしないことが、参考指標を変更していないことになる。

○初年度評価と事後評価の間の中間年度において、ロジックモデルに掲げられた仮説どおりに物事が進んだかどうか、何らかの形で確認していく必要があると思う。ロジックモデルについても、中間年度において必要に応じて見直していくのか。

- 従来のモニタリングでも、実績値の把握をする中でロジックモデルに不十分な部分があれば見直してきたが、こうしたロジックモデルの修正を取りやめるわけではなく、今後も必要があればロジックモデルについても修正し本有識者懇談会に諮る。今回の改正（案）は、単にロジックモデルの修正や目標値等の更新を行う必要がない場合に、事前分析表の更新を行わないとするもの。

## (2) 議題3

事務局より資料6に基づき説明。委員からの意見等はなし。

## (3) 報告

事務局より参考資料1～3に基づき説明。委員の主な意見等は以下のとおり。

- 行政事業レビューと政策評価の粒度の違いは現状どのくらいあるのか。
- 審議会の資料で代替していくことも積極的に行うことで作業量を減らすということも示されていると思うが、こういった形とする予定はあるのか。
- 内閣府の政策は省庁横断的な政策が多いため、他省庁や自治体、関係団体を含めて政策に関わるステイクホルダーとその役割を明記し、その中での内閣府の立ち位置を明らかにするのはどうか。
- 各政策において個別事業がどのような役割を担うのか、政策に与える効果について検証することはあっても良いのではないか。
- 内閣府の多様な政策の中で、各政策の特性に応じた評価手法をとる必要がある一方で、一覧性の確保についても両立するよう工夫していただきたい。

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>